

令和6年度 教育活動に関する職員アンケート(後期学校評価)結果

学校評価委員会

<回収率> 小学部 100% 中学部 100% 高等部 100%
全体 100%

回答の傾向について

全体を通して、各部の取り組みにおける「A」「B」の回答が、ほぼ90%を超え、概ね達成できたと捉えられる結果となりました。後期に入り、行事や活動を終え、職員の実践が子どもたちの成長として目に見えてきたことや、指導すべき内容が具体化されたことなどが、このような結果につながったのではないかと考えています。

また、今回は、職員、保護者、児童生徒アンケートにおいてそれぞれ関連している質問項目の回答から、日々の実践の成果が目に見えて分かる結果となりました。特に、重点目標1、各学部の重点事項(1)の結果は、職員自身の評価と、それに関連する保護者、児童生徒アンケートの質問項目の回答結果のつながりが目に見える高い評価となりました。他にも高い評価結果が出ている項目があり、各学部、各部での取り組みをまとめた補助資料を配布したことも、客観的な視点での評価へとつながったのではないかと考えます。これらのこと踏まえて、今年度の取り組みに対する成果と今後の改善策を考える分析へとつなげていきたいです。

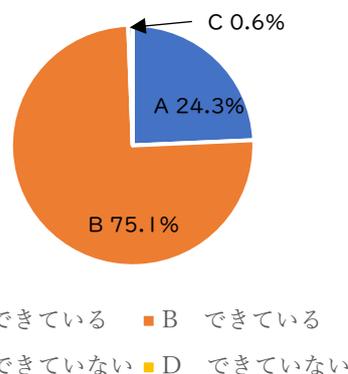
重点目標・重点事項について

※学校経営・運営ビジョン重点目標(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、学部間、学校間及び卒業後の学びの連続性を重視しながら、各教科のバランスの取れた資質・能力(3つの柱)を系統的に配列した指導計画を作成し、自立と社会参加に向けた資質・能力の育成を図っている。

A 24.3% B 75.1% C 0.6%

前期 A 19.8% B 76.9% C 3.3%



※小学部重点事項(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、指導計画を基に学年や類型において系統的な指導を行いながら教科等横断的な視点に立ち、身近な人とやりとりしたり、感じたことや想像したことを言葉によって自覚したり、情報を理解し自分の考えをまとめたりなどする言語能力の育成に努めている。

A 17.4% B 82.6%

※中学部重点事項(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、指導計画を基に学年や類型において系統的な指導を行いながら教科等横断的な視点に立ち、多様な他者を認めたり、集団の中で自分の役割を果たしたりすることで、他者と協力・協働して社会に関わろうとする人間関係育成・社会形成能力の育成に努めている。

A 40.9% B 59.1%

※高等部重点事項(1)

個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びの中で、指導計画を基に学年や類型において系統的な指導と教科等横断的な視点に立ち、地域の人々との協働や探究学習など幅広い学習を通して生活の中で活用できる力を育成し、自立と社会参加ができる人間性を育成に努めている。

A 14.6% B 83.6% C 1.8%

各学部ともに「A」「B」の回答が98%を超えています。全体で見ても、前期と比較して上昇した結果となりました。また、この質問に関連する保護者のアンケート項目の回答が98%以上、児童生徒のアンケート項目の回答も82%以上の結果となりました。これは、日々の授業実践及び子どもたちへのかかわりに職員自身が達成感をもっているということ、また、それが保護者及び児童生徒にもご理解いただき高評価になっていると捉えられます。このことは、「学校の質の向上」につながると考えています。

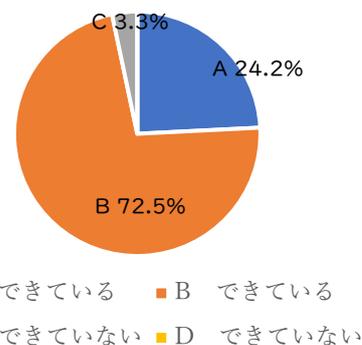
次年度以降も、子どもたちの成長のために職員が達成感や充実感をもって働けるよう、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいところです。

※学校経営・運営ビジョン重点目標（2）

効果的な ICT の活用を通して児童生徒が問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていく情報活用能力を育成し、児童生徒が様々な場面で一人一人の能力を発揮することができるよう努めている。

A 24.2% B 72.5% C 3.3%

前期 A 18.2% B 73.6% C 8.2%



※小学部重点事項（2）

効果的な ICT の活用を通して情報を主体的に捉え、整理したり比べたりして自分の考えをもち、それを身近な人に分かりやすく伝えるなどの情報活用能力を育成し、児童が様々な場面で一人一人の能力を発揮することができるように努めている。

A 15.2% B 78.3% C 6.5%

※中学部重点事項（2）

効果的な ICT の活用を通して情報を整理・比較したり、課題解決に向けて情報を主体的に活用したりしようとする情報活用能力を育成し、生徒が様々な場面で一人一人の能力を発揮することができるように努めている。

A 31.8% B 68.2%

※高等部重点事項（2）

効果的な ICT の活用を通して生徒の情報活用能力を育成し、他者と協働して様々な情報を結びつけたり、問題の発見や解決に向けて活用したりして、新たなことに気づいて情報社会に主体的に参画できる態度等を身に付けることができるように努めている。

A 25.5% B 70.9% C 3.6%

全体で見ると「A」「B」合わせて約96%になり、おおむね達成していると捉えられます。学部別に見ても、各学部ともに90%以上の回答となっています。特に小学部では、前期と比較すると約10%の上昇となりました。

また、小学部では「C」の回答が前期の22.2%から6.5%となり、大幅に改善されました。パワーポイントを使った教材やモニターを活用した授業の中で、「主体的に課題解決の学習に取り組む」ために「見る」「操作する」活動等を一人一人の児童に合わせながら取り入れてきた結果だと考えられます。加えて、一人一人の児童に合った ICT の効果的な活用を教員間で検討しながら行ってきたことが、このような結果につながったのではないかと考えられます。

「ICT の活用」については、今後も効果的な活用に向けて引き続き取り組み、様々な授業実践の共有や年間指導計画の作成等、学校全体として考えていきたい項目です。



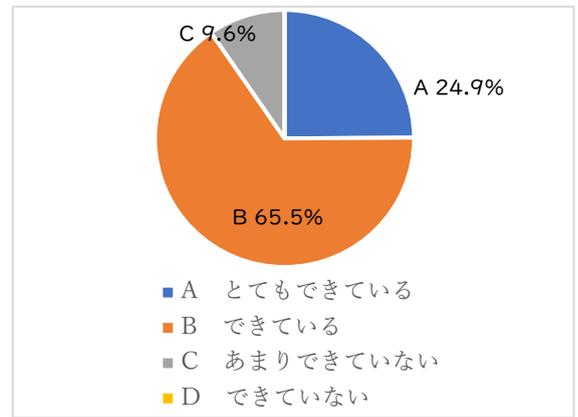
教 務

※カリキュラム・マネジメントの推進

児童・生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の育成を図るため、学年間、学部間の系統性を重視した年間指導計画モデルの作成と活用にあつめると共に、指導と評価の一体化に向けて個別の指導計画等の様式の工夫をするなど、教育活動を組織として改善しようと努めている。

A 24.9% B 65.5% C 9.6%

前期 A 25.6% B 61.2% C 13.2%



全体で見ると、「A」「B」の回答で90.4%となり、前期と比較して4%弱上昇しました。これは、おおむね達成できている状況と捉えられます。学部ごとに見てみると、小学部と中学部においては前期より多少下がる結果となりました。一方で、高等部においては、前期の74.1%から87.1%と10%以上の上昇となりました。

カリキュラム・マネジメントにおいては、カリキュラム・マネジメント委員会や教務部を中心に先生方からの意見等を取り入れながら検討を重ね、丁寧に取り組んできたことが徐々に全職員に定着してきたことが結果の上昇につながってきているのではないかと考えられます。加えて、教職員一人一人の真摯な取り組みにより、理解が図られたことも要因として挙げることができます。

今後も、学部の実情を踏まえ年間指導計画モデルの作成と精査を重ね、本校の児童生徒の学びが系統的に重なるよう、児童生徒の成長にさらにつなげていけるようにしたいと考えます。

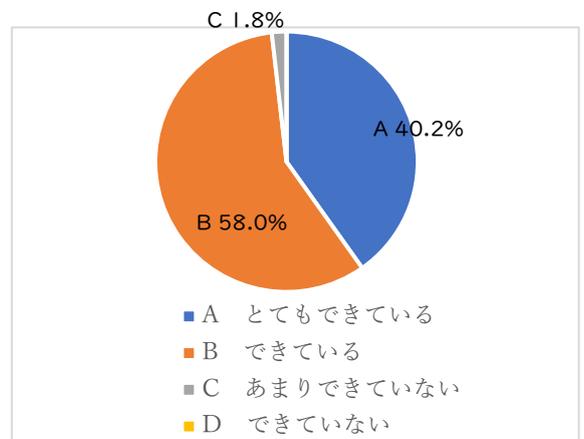
研 修

※研究推進

校内研究3年次のテーマに基づき、研修日を設けて研究内容や方法等の周知を行い、記録ファイルを通して進捗状況を確認したり、リーダー会で情報を共有したりして、研修グループの取り組みを補佐しながら、円滑に研究を進められるよう努めている。

A 40.2% B 58.0% C 1.8%

前期 A 29.2% B 65.6% C 5.2%



「A」「B」の回答で98.2%となっており、概ね達成できている状況です。学部ごとに見てみると、小学部と中学部においては「A」「B」の回答で100%となりました。高等部においても、前期の88.9%から94.4%と7%近くの上昇となりました。

重点目標と研修のテーマが密接に関係していたり、研修部から職員に取り組む内容を明確に伝えたりしてきたことが上昇した要因の一つと考えられます。また、校内研究も3年次に入り、教員の授業づくりに対する意識の向上や児童生徒の成長や変容が目に見える形となって表れてきたことで、継続して取り組んできたことに自信や肯定感がもてたことが、このような結果につながったのではないかと考えます。

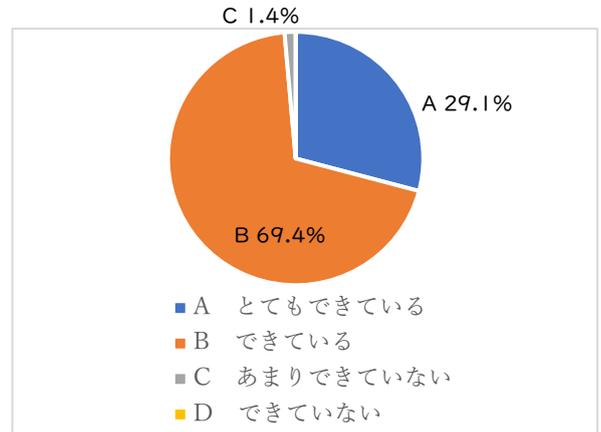


保健部

※保健指導の充実

関連する部署と連携を図り、各学部で発達の段階に応じ、毎日の健康管理や歯磨き指導、性に関する指導などの健康に関する保健指導を実施している。

A 29.2% B 69.4% C 1.4%
前期 A 28.9% B 66.1% C 5.0%



「A」「B」の回答が98.6%で、前期と比べて6%近く数値が上昇しています。先生方の健康管理や保健指導についての意識の向上、及び日々の授業実践の成果です。また、保護者アンケートの「保健指導の充実」についての質問項目でも、全学部で「A」「B」の回答が97%を超えていました。

日々の取り組みの成果が、子どもたちの成長につながっていると捉えられる結果です。今後も、子どもの発達段階や障がいの状況を踏まえながら、引き続き取り組んでいきたい内容です。



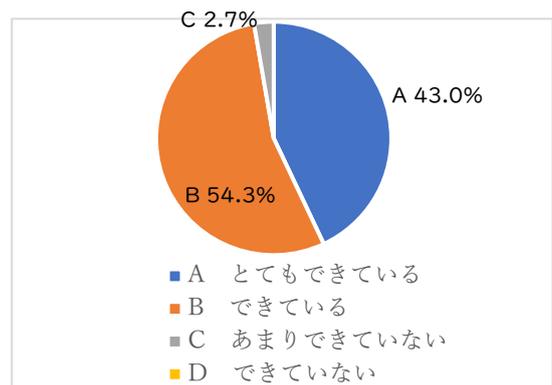
情報教育

※専門的知識の向上

端末やアプリケーションの操作や活用について、情報を共有したり技術向上に向けた研修会を実施したりしている。

(8月に研修部と合同の研修会、2学期に情報部主催の研修会を実施予定。)

A 43.0% B 54.3% C 2.7%
前期 A 33.3% B 59.2% C 7.5%



「A」「B」の回答が97.3%で、前期と比べて5%近く数値が上昇しており、概ね達成できている状況です。

情報教育部では、今年度も8月に研修部と合同の研修会を実施したり、wifi環境の整備・リモート学習・集会活動でのモニタリング等により授業のサポートにも取り組んだりしてきた結果が、数値上昇につながっているものと考えます。また、情報教育部で先生方が困った時に、その都度個別に対応してきたことが、大きな成果につながっているものと考えています。

<その他>

生徒指導、キャリア支援、教育支援、渉外の質問については、「A」「B」の回答が90%を超え、概ね達成できていると捉えることができる結果となりました。次年度も、継続して取り組むことができるよう、具体的な目標の設定、取り組みの可視化等の工夫に努めていきたいと考えます。

<意見記述から>

- ・「キャリアパスポート」ができ、児童達も将来を考えるよい機会となった。ただ、学級で行っている「学期の目標」と重複してしまい複数の目標になってしまい、上手く活用できなかった。来年度は児童にもう少し丁寧な説明をしたり、目標を明確に精選したりするなどしたい。
- ・キャリア・パスポートの活用が始まったので、小学部の段階から、卒業後の生活を見据えた関わりが保護者・児童生徒とできると良いと思う。

このように、次年度につながる意見がある一方で、以下のような意見もありました。

- ・公開研究会で発表することも大事であるが、校内の指導実践の報告会のような機会もあれば学部内、学部間の指導の交流になるのではないか。
- ・教育活動をより充実させるためにも、研究公開を3年ごとに減らす。
- ・職員の中で進路指導について温度差を感じている。
- ・大笹生支援学校ならではの特色ある地域密着型教育活動をみんなで考えていければよいと思います。

今回の意見等については、本校の在り方にも関係していくことから、各学部や関係する部や委員会と情報を共有し、教職員の意見を聞きながら次年度に向けて進めていくようにしたいと思います。

